

有害物質等分析調査統括チームは、食品汚染物質分析のトップランナーとして FAMIC の使命を果たします

そのため、

- I. 合理的な品質保証マネジメントにより、信頼性の高い試験データを提供します。
- II. 分析が困難な汚染物質の分析能力の確立に積極的に取り組みます。
- III. 効率的で有効な分析方法についての提案と試験機関等への技術支援を行います。

また、分析試験のパフォーマンスを継続するため

1. 関連学会などで最新の業務成果を発信します。
2. 関係機関と連携し、有害物質の分析能力の向上と展開を進めます。
3. 先進的な知見と技術を備えた人材を育成します。

=====
【31年度の具体的な取り組み】

I. 合理的な品質保証マネジメント

- ISO/IEC17025：2017に適合した認定試験のマルチサイト展開
- PDCAサイクルによる継続的なマネジメントシステムの改善
- 認定外試験における共通のマネジメントシステムの運用

II. 分析が困難な汚染物質の分析能力の確立

- DON-3-Glu分析の技術を活かし、NIV-3-Gluの分析能力を確立
- ピロリジジナルカロイド類について分析対象品目の拡大

III. 効率的で有効な分析方法の提案と技術支援

- DON、NIVとそれぞれの配糖体について、信頼性の高い分析法の確立
- トリコテセン、アフラトキシン、オクラトキシンなど多系統多成分のかび毒の一斉スクリーニング分析方法の検討

1. 関連学会への業務成果の発信

- マイコトキシン学会及び食品衛生学会について、今後とも学術発表を含め継続的に参加
・りんご果汁中のパツリンの安定性に関する知見（農林水産省と合同）
- 食品衛生学会について、学術発表、雑誌投稿の推進
・茶、コーヒー等の高妨害マトリクス食品中のアクリルアミドの分析

2. 関係機関との連携

1) 農林水産省との連携

- DON、NIV、DON-3-Glu、NIV-3-Gluの同時定量方法の検討
- ISO/IEC17025認定試験におけるマネジメントの改善とマルチサイト展開
- かび毒について調査品目の拡大の検証

- ・DON、NIV等：そば、ハトムギ等
- ・パツリン：ぶどう果汁、温州みかん果汁

2) 農研機構との連携

- 共同研究等への協力
- 試験法開発への協力

3) 情報技術交流

○「第2回かび毒分析勉強会」の開催

- ・内容：農研機構食品部門、穀検、FAMICを中心に、製粉会社等の民間で分析を行っている担当者で構成。31年5月開催予定
- ・目的：かび毒を中心とした分析に関する技術情報、最新のトレンドや動向の情報交換を行う。主目的は、それらの情報をもとに分析業務のシーズとニーズをつかむことと担当者レベルでの交流による人のつながり。

○「業務成果発表会」の開催

- ・内容：有害物質等分析調査統括チーム、有害物質等分析調査課の分析業務に関する成果を中心とした発表会
- ・目的：職員のプレゼンテーション能力の向上を図る。また、外部にも公開することによりFAMICの技術力と先進性をアピールする。

3. 人材育成

○総合的目標

農林水産省、農研機構をはじめとして外部機関との情報交換に努め、信頼性の高い分析とその裏付けとなるマネジメントの運営などの能力、経験をベースとして、どこへ出ても臆さないマインドとプレゼン能力を身につけ、それを汚染物質分析に関する見識にまで高めること。

○基本的力量として以下を備える

- ・ISO/IEC17025に適合した分析試験マネジメントの理解
- ・トレンドとなっている機器類や分析技術情報の把握
- ・分析試験実務での経験、プレゼンテーションの実践経験
- ・汚染物質に関するCodex、EFSA、FSA等の世界的な動向の把握